

平成23年度第1回執行部会議事録（要旨）

平成23年6月4日（土）午後1時～3時、母校旧会議室

◆総会開催に関する諸課題

平成24年度定期総会開催に当たり（1）開催の期日及び時間：平成24年11月11日（日）を第1候補、18日（日）を第2候補、いずれも午後1時開始、（2）開催場所：母校、（3）総会終了後の催し：懇親会を開催する場合は芸大食堂で行い、後に芸大作品展示場や校内を散策、講演会の場合は寛永寺管長や上野動物園園長、或いは江戸博物館館長（この場合は総会場所も要検討）に依頼しては、（4）参加者への周知方法：開催期日だけでも早期に決定し、会員にホームページや今年の会報に掲載し周知する、（5）総会後の催しの費用：懇親会を開催する場合は5千円以内の会費とする等、を課題として挙げ、今後更に検討して行くこととした。

◆各期代表委員に関する諸課題

代表委員が10名以上であったり、0名であったりの期がある等の理由からか、これまで毎年代表委員会出欠通知の返信回収率並びに出席率共に悪い。改善の第一歩として、今回の各期代表委員会通知葉書に会報部長が直筆で委員継続の意思確認のメモを書き加えた。その効果は明白で返信には様々な内容の回答があり、本日の各期代表委員会は旧14期から新63期まで総勢40名と多くの委員が出席する予定。

◆その他

PTA新聞「いちょう」の題字横に校訓の扁額「自主協調」が掲載され、前薬師寺佐伯常胤書となっているが、宮崎蕙会報部長が前薬師寺は間違いで前法隆寺貫主佐伯常胤書であると訂正依頼をしたが、その根拠の明示を求められた。昭和29年の同窓会記念号に掲載された初代校長高藤太一郎先生の「創立30周年に際して会員諸君への御願」という文章中に「・・・学徳兼備の高僧法隆寺貫主佐伯常胤猊下の真筆になれるは、真に本懐の至りであります。」とあり、PTA広報部に理解して戴いた。

以上

平成23年度各期代表委員会議事録（要旨）

平成23年6月4日（土）午後3時～5時、母校旧会議室

◆総会開催に関する諸課題及び各期代表委員に関する諸課題を議題として議論して戴く予定でしたが、今年は特に議決すべき議題がないことから、実際には上記課題を中心に東叡会に関する様々な意見を聞く会となった。会報部長の呼びかけで初めて参加した委員が数名など、旧制14期から新制63期まで40名の委員が出席し、大変活気のある会となった。全ては記載できなかったが各委員から出された主な意見は以下の通り。

- （1）役員会では各期の同期会やクラス会の開催状況を把握しているのか。
- （2）東叡会のホームページが活用されていない。

- (3) 最近母校の教育が安定しているが、それは現職教職員の努力の賜物であろう。
 - (4) 昨年の会報のあて先不明での戻りが大変多かった。名簿管理業者を変更した際のデータ移管に問題があったのでは。名簿の再構築が必要では。
 - (5) 総会など東叡会活動には各期代表委員のやる気が大切。
 - (6) これまで記念の会では多くの会員が出席しているが、それは昔の友達と旧交を温めたいからだ。事務的内容の報告会では参加する気になれない。
 - (7) 同窓会の良さは諸先輩とのコミュニケーションである。
 - (8) 2年に1回総会があることを知らなかった。
 - (9) 各期代表委員は各期の状況を把握しないといけない。
 - (10) 卒業生にも各界に色々な人材を輩出しているので、それらの人材を講演会など活用すべき。
 - (11) 各期代表委員と執行部とのコミュニケーションが希薄では。
 - (12) ネット上での委員や役員とのコミュニケーションシステムを構築しては。
 - (13) 堅苦しい総会は厭だ。総会に出席してどのようなメリットがあるのか。
- 等々。

◆会員名簿の構築に関して

昨年送付した会報から約850通が住所不備、尋ねあたらず、表札違い、転居等の理由で返送された。その中には名簿の不備が原因となっているものも少なからずあることから、名簿再構築の第1歩として本日出席した各期代表委員に各期の返送リストを渡し、確認を依頼した。確認事項は会報部長へ連絡戴きたい。

以上